

学校法人鉄蕉館財務状況について

令和4年5月23日
学校法人鉄蕉館 財務統括部

◆令和3年度決算の主な概要

1. 資金収支計算書

※資金の顛末を表すものになり、収入、支出は同じ金額となる計算書

【法人全体】

収入及び支出は22億9,821万円となった。

今年度予算対比△5,359万円

収入においては主に学納金収入（大学はほぼ予算通りの着地、専門学校は日本語学科が0円となり予算比△715万円）、手数料収入、補助金収入（大学は前年度に対し経常費補助金圧縮率が厳格化されたことにより見込み数値未達で予算比△170万円、専門学校はほぼ着地）、前受金収入（大学は令和4年度入学生の大幅減により予算比△2,029万円、専門学校は超過達成で予算比426万円）が予算未達となったが、寄付金収入においては予算額より+562万円となった。尚、当初予算値と比較すると+1億4,732万円の増額となった。支出においては人件費等の経常的経費において費用の抑制化を図ることができ、予算内の執行となった。

※今年度予算対比で抑制できた主な科目：人件費△718万円、教育研究経費△2,132万円、管理経費△1,373万円

《前年度対比+8,070万円》

☆主な要因

- ・寄付金収入の増加 +4,823万円
- ・補助金収入の増加 +1,574万円（大学：経常費補助金、改革総合支援事業タイプ1、ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業いわゆる施設設備補助による増額）

【亀田医療大学】

収入及び支出は15億9,790万円となった。

今年度予算対比△4,205万円

収入においては主に補助金（予算比△170万円）、学納金前受金（予算比△2,029万円）が

未達となった。

支出においては法人全体同様、経常的経費においては予算内での抑制化が図れた。

※今年度予算比：人件費△311万円、教育研究経費△178万円、管理経費△500万円

《前年度対比+6,115万円》

☆主な要因

- ・ 寄付金収入の増加 +6,212万円
- ・ 補助金収入の増加 +1,931万円（経常費補助金等）

【亀田医療技術専門学校】

収入及び支出は6億1,224万円となった。

今年度予算対比△1,160万円

収入においては学納金収入が予算比△715万円となったが、前受金収入において予算比426万円（助産学科：予算比+248万円 看護学科：予算比+81万円 介護福祉学科：予算比+96万円）と好転し、その他の経常的収入においてもほぼ予算額の水準となった。

支出においても法人全体、大学同様、経常的経費においておおよそ予算内執行にて費用の抑制化が図ることができた

※今年度予算比：人件費△410万円、教育研究経費△1,954万円、管理経費△694万円

《前年度対比+1,878万円》

☆主な要因

- ・ 寄付金収入の増加 +2,350万円
- ・ 前受金収入の増加 +691万円

2.活動区分資金収支計算書

※企業でいうキャッシュフロー計算書であり、収入支出においては前述の資金収支計算書の内訳と同様となり、主に教育活動、施設整備等の活動、その他の活動（主に借入金、貸付金など）と資金収支内訳を細分化したもの

学校全体における教育活動資金収支差額は+4億1,434万円、施設整備等活動資金収支差額は△1億9,608万円、その他の活動資金収支差額は△1億369万円となった。

尚、施設整備等活動資金収支差額のマイナスの主な要因としては減価償却引当特定資産の繰入によるもので単純にキャッシュが減ったというものではない。

※減価償却引当特定資産（施設設備の新設、改修及び更新等を計画的に実施するための財源の確保の為に創設したもの）

その他の活動資金収支差額のマイナスの主な要因は借入金返済支出、学校法人鉄蕉館奨学金及び大学院修学支援の長期貸付金支出、及び奨学費等引当特定資産の繰入によるもの。

大学における教育活動資金収支差額は+2億7,171万円、施設整備等活動資金収支差額は△1億5,092万円、その他の活動資金収支差額は△8,518万円となった。

専門学校における教育活動資金収支差額は+1億3,371万円、施設整備等活動資金収支差額は△4,515万円、その他の活動資金収支差額は△1,821万円となった。

3.事業活動収支計算書

※企業に例える損益計算書

【法人全体】

事業活動収入は13億8,128万円となった。

今年度予算対比△999万円

主な理由は学納金収入、入学検定料等の手数料収入、補助金収入の未達等によるもの

《前年度対比+6,200万円》

☆主な要因

前述の資金収支の通り寄付金、補助金等の教育活動収入の増収によるもの

事業活動支出は11億8,646万円となった。

今年度予算対比△5,482万円

理由は資金収支の通り人件費等のおおよその経常的経費において費用の抑制化によるもの

《前年度対比△2,693万円》

☆主な要因

理由としては人件費等の経常的経費の増額によるものである

その結果、当年度収支差額は1億2,171万円となった。

前年度対比+1億5,815万円と好転し4年ぶりに黒字となった。

【亀田医療大学】

事業活動収入は9億1,448万円となった。

今年度予算対比△386万円

主な理由は入学検定料等の手数料収入、補助金収入の未達等によるもの

《前年度対比+7,917 万円》

☆主な要因

前述の資金収支の通り、寄付金、補助金等の教育活動収入の増収によるもの

事業活動支出は 8 億 719 万円となった。

今年度予算対比△1,782 万円

理由は資金収支の通り人件費等のおおよその経常的経費において費用の抑制化が図れたこと、学校法人鉄蕉館奨学金利用の学生打ち切りにより徴収不能引当金繰入見込額の減少によるもの

《前年度対比△1,525 万円》

☆主な要因

前述同様、人件費等のおおよその経常的経費において費用の抑制化が図れたことによるもの

その結果、当年度収支差額は 5,862 万円となった。

前年度対比+1 億 2,287 万円と好転し 4 年ぶりに黒字となった。

【亀田医療技術専門学校】

事業活動収入は 4 億 3,861 万円となった。

今年度予算対比+619 万円

《前年度対比+2,016 万円》

☆主な要因

・寄付金収入の増加 +2,350 万円

事業活動支出は 3 億 6,152 万円となった。

今年度予算対比△3,475 万円

人件費等のおおよその経常的経費において予算内執行にて費用の抑制化が図れることができた。

※予算比：人件費△453 万円、教育研究経費△2,039 万円、管理経費 769 万円

《前年度対比△431 万円》

☆主な要因

教育研究経費の抑制化によるもの。

当年度収支差額は 5,266 万円となった。
前年度対比+6,386 万円と好転し黒字となった。

4. 貸借対照表（令和 4 年 3 月 31 日時点）

【法人全体】

総資産は 43 億 5,666 万円となった。
前年度対比プラス 1 億 1,684 万円
増加理由は寄付金による現預金の増加、特定資産の増加、学生への奨学金による長期貸付金によるもの。

総負債は 9 億 5,499 万円となった。
前年度対比△7,796 万円
減少理由の主なところは借入金返済、退職給与引当金の減、リース契約等の長期未払金減少、前受金減によるものである。

純資産は 34 億 167 万円となった。
前年度対比プラス 1 億 9,481 万円
主な理由としては資産取得による第 1 号基本金、及び第 4 号基本金の増加、繰越収支差額の好転によるものである。

【亀田医療大学】

総資産は 30 億 9,523 万円となった。
前述同様、増加理由は寄付金による現預金の増加、特定資産の増加、学生への奨学金による長期貸付金によるもの前年度対比+4,148 万円

総負債は 5 億 396 万円となった。
前年度対比△6,580 万円
前述同様、減少理由の主なところは借入金返済、退職給与引当金の減、リース契約等の長期未払金減少、前受金減によるものである。

純資産は 25 億 9,214 万円となった。
前年度対比プラス 1 億 729 万円
前述同様、主な理由としては資産取得による第 1 号基本金、及び第 4 号基本金の増加、繰越収支差額の好転によるものである。

【亀田医療技術専門学校】

総資産は 11 億 6,010 万円となった。

減価償却引当特定資産等の増加による前年度対比プラス 6,593 万円

総負債は 4 億 5,086 万円となった。

前年度対比△1,114 万円

前述同様、減少理由の主なところは借入金返済、リース契約等の長期未払金減少、によるものである。

純資産は 7 億 385 万円となった。

前年度対比プラス 7,708 万円

主な理由としては資産取得による第 1 号基本金増加及び第 4 号基本金の増加によるもの

以上